



東校地にある正門。正面右が初代校長、N・B・ゲーンスにちなんだゲーンス記念ホール

E メモ E



<かつての卒業生>長谷川泰子（1904～1993年）女優。詩人中原中也や文芸評論家小林秀雄との恋愛で有名▽田中路子（1909～1988年）女優。声楽家。オーストリアの実業家と結婚し、主に欧州で活動した▽矢野綾子（1911～1935年）作家堀辰雄の婚約者。「風立ちぬ」の節子のモデルとされる（生年には異説もある）▽森本順子（1932～2017年）。絵本作家。13歳で被爆。その体験に基づく絵本「わたしのヒロシマ」は、後半生を過ごしたオーストラリアでも平和教材として使われた。

杉浦圭子
NHKエグゼクティブアナウンサー



女学院時代は家と学校を往復する「超貴面目で面白くない生徒」。NHKに入り不登校などさまざまな問題を扱ううち、自分が中高でいかに恵まれていたか気付いたという。「自由でおおらかな校風。礼拝などを通じて学んだ隣人愛や平和への貢献」「6年間よきものを注がれていたのでした」

広島放送局勤務は異例の3度目。「2度目の勤務は娘を女学院で学ばせたくて志願しました」。被爆50年の年に種から発芽させ、恩師に頼んで母校の慰霊碑のそばに植えた被爆アオギリが今、大きくなっている。中高に放送部があるせいか放送界に卒業生が多い。杉浦と同様「NHKの顔」の一人青山祐子（45）はニュースウォッチ9のメインキャスターなどを務め、現在は育児休暇中。内田ゆき（45）は東京大からNHKに

高校人国記　広島女学院高校（広島市中区）②

放送・芸術分野 学び基に飛躍

NHKのエグゼクティブ・アナウンサー 杉浦圭子（60）はニュース、スポーツ中継から連続ドラマまで幅広いジャンルの番組をこなしてきた。1988（昭和63）年には紅白歌合戦で女性初の総合司会も。だが、ライフルと考えているのは原爆平和報道という。被爆をテーマにしたNHKスペシャルのキャスター、平和巡礼コンサートの司会…。「広島女学院では多くの方が原爆の犠牲になりました。学校ゆかりの人々はどんな職業や立場の人も原爆犠牲者の声に耳を澄ませながら、自らの務めを果たそうとしています」

女学院時代は家と学校を往復する「超貴

面目で面白くない生徒」。NHKに入り不

登校などさまざまな問題を扱ううち、自分

が中高でいかに恵まれていたか気付いたと

いう。「自由でおおらかな校風。礼拝などを

通じて学んだ隣人愛や平和への貢献」「6

年間よきものを注がれていたのでした」

広島放送局勤務は異例の3度目。「2度

目の勤務は娘を女学院で学ばせたくて志願

しました」。被爆50年の年に種から発芽さ

せ、恩師に頼んで母校の慰霊碑のそばに植

えた被爆アオギリが今、大きくなっている。

中高に放送部があるせいか放送界に卒業

生が多い。杉浦と同様「NHKの顔」の一

人青山祐子（45）はニュースウォッチ9のメ

インキャスターなどを務め、現在は育児休

暇中。内田ゆき（45）は東京大からNHKに

隣人愛や平和貢献。社会に出て実感

入り、「うちそさん」や昨年の「アシガール」など連続ドラマのプロデューサーを務めた。「女学院の先生方は、時代を先取りする女性を育てたいとの思いをお持ちだった」と話す。

ほかに中元綾子（46）がフリーアナとして広島で活動中。広島テレビで初の女性ニュースキャスターを務めた田坂るり（52）二

ツボン放送にいた新保友映（38）、主に歌手北畠三郎の番組に出演したフリーの白井京子（66）も卒業生。



映画美術監督 部谷京子

映画界では美術監督の第一人者、部谷京子（64）がいる。黒沢明監督の下で美術のチーフ助手を務め、92（平成4）年、周防正行監督の「シコふんじゅつ」で美術監督デビュー。「Shall we ダンス？」など周防監督の2作品で日本アカデミー賞最優秀美術賞に輝いた。広島国際映画祭を創設するなど、活動はエネルギー溌々。

「女学院中の時、広島を出たいと思い始め、高校に進んで美術を目指そうと決めた。美術の授業ではいつも抽象画を一枚描くのが課題。とても楽しみながら描いていました」。それが、武蔵野美術大への進学、そして今日につながった。「女学院の清楚

でいて自由活発な雰囲気が好きだった。卒業後も母校の文化祭などで何度も講演しました。人生は楽しいものだ」と。ほかに元俳優の戸田麻衣子（42）や宝塚歌劇団男役スター瀬央ゆりあ、声優黒瀬ゆうこもいる。

音楽界にはピアニスト新田美保（52）、声楽家岡崎智恵子、バイオリンの盛田恵（60）、マリンバの石原有希子（33）と多彩。バレエ界には藤堂真子（63）がいる。新田はパリに

進路を決意。「清楚で自由活発な雰囲気好き」

留学し今も当地で演奏家と大学講師の両方をこなす。「女性でもできるんだ」という女学院の精神に影響されたと思う。ぎりぎりの線で人生を精いっぱい生きてみたいという欲求が生まれました。そのような経験から後輩に訴える。「少女よ大志を抱け」



石原有希子



新田美保

次回は25日に掲載します。

（客員編集委員・富沢佐一）

「高校人国記」は広島、山口両県を中心に回つて、高校ごとに話題の卒業生を紹介しています。各校の情報をメールなどでお寄せください。宛先は〒730-8677広島市中区土橋町7の1、中国新聞編集局「高校人国記」係。メールは、bokou@chugoku-np.co.jp